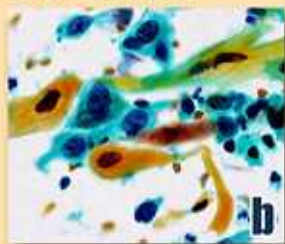
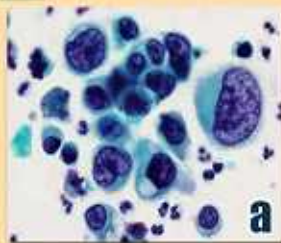


▶ チャレンジ・細胞診 がん細胞はどっち？

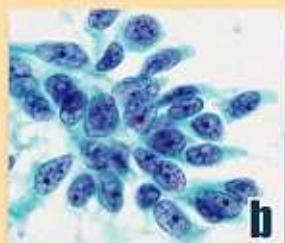
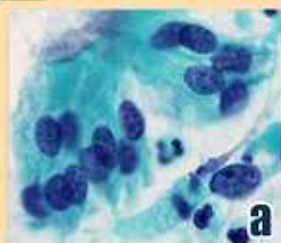
チャレンジ
1 子宮の細胞、がんはどっち？



チャレンジ
2 膀胱(尿)の細胞、がんはどっち？



チャレンジ
3 肺(痰)の細胞、がんはどっち？



細胞の形は千変万化！
とても奥が深い・・・、
だからこそ、やりがい
のある仕事なのです。



チャレンジ・細胞診の答え

- ① a.正常細胞（扁平上皮細胞） b.がん細胞（扁平上皮がん細胞）
- ② a.がん細胞（尿路上皮がん細胞） b.正常細胞（尿路上皮細胞）
- ③ a.正常細胞（気管支上皮細胞） b.がん細胞（肺腺がん細胞）

URL:<http://www.ctjssc.com/>



日本細胞診断学推進協会
細胞検査士会

〒170-0012

東京都豊島区上池袋1-38-5 アサマビル203

FAX:03-3940-4044

What is
Cytotechnologist?

がん診断の担い手

細胞検査士



「細胞検査士」という仕事をご存知ですか？

日本細胞診断学推進協会
細胞検査士会

細胞検査士ってなに？

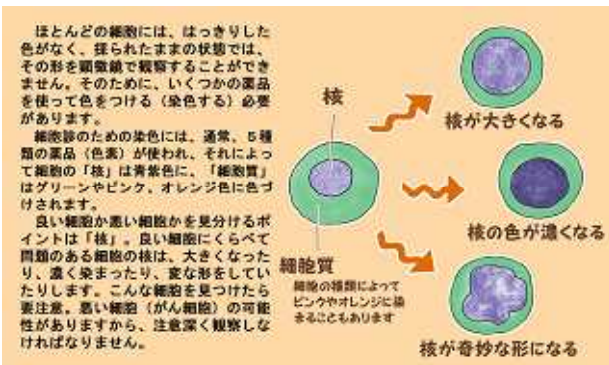
皆さんは「細胞検査士」という職業をご存知ですか？
細胞検査士は、がんの検査の中でも細胞検査(細胞診)を担う専門職です。ここでは細胞診のこと、そして細胞検査士の仕事をご説明しましょう。

がん細胞を探し出す、それが細胞検査士の仕事

細胞検査士は、Cytotechnologist(CT)と呼ばれ、日本だけではなく世界中の多くの国々で、日々、顕微鏡を操作しながら、細胞を一生懸命みている。

人間の体を形作る細胞は、およそ60兆個。その一つ一つは顕微鏡を使わないと見えない大きさです。そんな小さな細胞が、それぞれに決められた仕事を秩序正しくこなしてくれるおかげで、私たちは健康に生活していくことができます。ところが、ときとして秩序を無視するように自由勝手に増え続け、最終的には命をもおびやかす細胞ができてしまう。これが「がん細胞」なのです。

細胞には顔がある、と言うと驚かれるかもしれませんが、もちろん、細胞に目や鼻があるわけではありませんが、私たち細胞検査士は細胞それぞれの顔つき、つまりその形の変化を顕微鏡でとらえ、「良い細胞(良性細胞)」と「悪い細胞(悪性細胞：がん細胞)」を区別したり、たくさんの細胞の中からわずかな数のがん細胞でも見逃すことなく見つけ出すことができます。このような検査が細胞診、そして細胞診を担う専門資格を有した臨床検査技師が細胞検査士です。



細胞診は、細胞検査士と細胞診専門医との二人三脚で行われる検査です。異常な細胞を見つけた時には、必ずいっしょに検討(ディスカッション)を行い細胞の見方を共に確認しながら結果を出し、臨床医に報告されます。

細胞診は体にやさしい検査です

細胞診の特徴は、体に大きな負担をかけることなく精度の高い検査ができることにあります。たとえば、体から自然に排泄される痰(タン)や尿などを細胞診の材料(検体)として用いれば、痛みを感じることなく、何度でも繰り返して検査を行うことが可能です。また、子宮がんの検査のように、体の表面を軽くこすって細胞を採ることもありますが、体を傷つけることはほとんどありません。さらに、集団検診(子宮がん検診や肺がん検診など)として、一度にたくさんの人の検査ができることも特徴の一つ。

何度でも繰り返すことができ、痛みが少なく、傷を残さない細胞診は、体にやさしい検査なのです。

細胞検査士の使命は、決してがん細胞を見逃さないこと

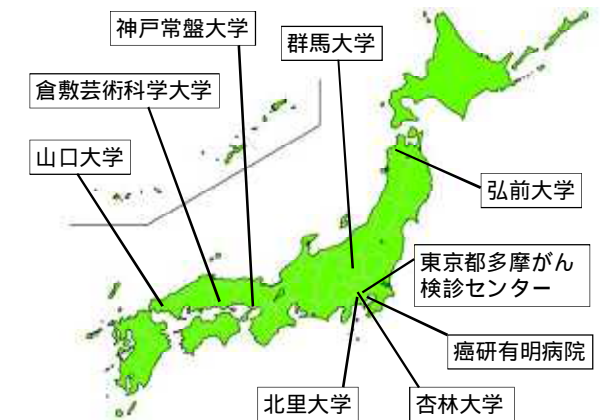
近年、医学検査の技術は大きく進歩し、X線、電磁波、超音波などを使って撮影した画像をもとに診断する方法(画像診断)や、がん細胞が血液中に作り出すがん細胞関連物質を調べる方法(生化学検査)、遺伝子を調べてがん細胞を見つけて出す方法(遺伝子検査)など、がんの早期発見に役立つさまざまな方法が開発されています。しかし、がんの最終的な診断は、体から採られた細胞あるいは組織(細胞の塊)を顕微鏡で観察し、それらの形の変化を確認することで判断する方法(形態学的検査)に委ねられており、その意味で細胞診ひいては細胞検査士のがん診断に対する役割は重要です。

治療法が進歩したとはいえ、がんが命にかかわる病気であることに変わりはありません。私たち細胞検査士は、たとえどんなにわずかながん細胞であっても決して見逃さないことを使命として、顕微鏡を武器に、日夜がん細胞に挑み続けています。

細胞検査士への道

細胞検査士になるためには、日本臨床細胞学会が定める細胞検査士資格認定試験に合格しなければなりません。この試験の受験資格を得るためには、次の3つの方法があります。

1. 細胞検査士養成コースのある大学で所定の単位を修得する(現在、養成コースを設けている大学は、以下の7大学)。
杏林大学保健学部細胞検査士養成課程
北里大学医療衛生学部細胞検査士コース
群馬大学医学部保健学科細胞検査士養成課程
山口大学医学部保健学科細胞検査士養成課程
加計学園細胞病理学研究所(倉敷芸術科学大学)
神戸常盤大学保健科学部細胞検査士養成課程
弘前大学医学部保健学科細胞検査士養成課程
(詳細は各大学に直接お問い合わせください)
2. 大学、医療短大、専門学校を卒業し、臨床検査技師国家資格を得たのち、細胞検査士養成所に入学し所定の教育課程を履修する(現在、細胞検査士養成所は以下の3施設)。
癌研有明病院付設細胞検査士養成所
東京都多摩がん検診センター細胞検査士養成所
加計学園細胞病理学研究所(倉敷芸術科学大学)
(詳細は各養成所に直接お問い合わせください)
3. 臨床検査技師(衛生検査技師)資格を得たのち、細胞診業務1年以上の実務経験を積む。



今や、日本人の2人に1人が一生のうち一度はがんにかかり、3人に1人ががんで亡くなる時代です。細胞検査士はがん検査の専門職として、皆様の健康と命を守るため、がんの早期発見と正確な診断に貢献すべく医療の最前線で活躍しています。

